

黒大豆の病害防除について（白絹病、茎疫病、黒根腐病）

令和5年
南丹農業改良普及センター

近年、大雨などの影響で南丹管内で黒大豆や黒大豆えだまめで白絹病、茎疫病、黒根腐病の被害が問題になっています。発病すると抑えるのが難しく、収量にも大きな影響がありますので、下記を参考に早期の対策をしましょう。

1、白絹病・茎疫病

（1）特徴、症状等

①白絹病

- 高温多湿時に多発。
- 湿潤な水田転換畑、台風等で冠水したほ場で発生しやすい。
- 白色の絹糸状の菌糸が地際の茎の周囲を取り巻き、その後、褐色の小粒菌核が形成されます。

②茎疫病

- 高温多湿時に多発
- 湿潤な水田転換畑、台風等で冠水したほ場で発生しやすい。
- 根の表面や主茎の地際が褐変する。

（2）対策

- 発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出し処分しましょう。 ○ ほ場の排水に努めましょう。
- 発病株を抜いた跡や近接する株元に薬剤のかん注、及び抜いた株穴に石灰を散布しましょう。



白絹病の白色の菌糸



茎疫病を発病した株

2、黒根腐病

（1）特徴、症状等

- 多湿条件で多発
- 莢肥大期以降に葉が黄化したり、黄色～退緑の斑点を生じる。
- 細根が腐朽し、激しい場合は主根のみが残ったゴボウ根状となり、枯死する。

（2）対策

- ほ場の排水に努めましょう。
- 発病株は速やかに抜き取りほ場の外に処分しましょう。また、抜いた株穴に石灰を散布しましょう。
- 連作栽培は避けましょう



黒根腐病を発病した株の葉っぱ



根がゴボウ状になった様子